

シラバス2025

教育課程(歯科技工科)			
	学科目名	単位数	時間数
1	外国語(英語)	1	16
2	造形美術概論	1	16
3	情報リテラシー	1	16
4	情報リテラシー演習	1	16
5	キャリアデザインⅠ	1	16
6	歯科技工学概論	1	16
7	歯科技工士関係法規Ⅰ・Ⅱ	2	32
8	歯の解剖学Ⅰ・Ⅱ	4	64
9	歯形彫刻基本実習	1	32
10	顎口腔機能学Ⅰ・Ⅱ	2	32
11	歯科理工学Ⅰ・Ⅱ	7	112
12	有床義歯技工学Ⅰ・Ⅱ	6	96
13	有床義歯技工学実習	6	192
14	歯冠修復技工学Ⅰ・Ⅱ	7	112
15	歯冠修復技工学実習	6	192
16	小児歯科技工学	1	16
17	小児歯科技工学実習	1	32
18	矯正歯科技工学	1	16
19	矯正歯科技工学実習	1	32
20	総合基礎実習ⅠⅡ	4	128
21	基礎応用実習ⅠⅡ	3	96
22	総合応用実習	4	128
23	包括的医療教育	6	192
総合計		68	1,600



大分県歯科技術専門学校

歯科技工科

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	科学的思考の基盤、人間と生活				
教 科 名	外国語(英語)	形 式	講義(対面)		
学 年	1 学年	講 義 時 期	前期(4月～9月)		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間		
		授 業 回 数	8 回		
担当講師	中 尾 俊 一 郎	(非常勤)			☆は実務経験のある教員

講師紹介

基礎英語、英会話、専門英語などの授業を教えた元高校教員が、長きの英語教育の経験を活かし、さまざまな場面でのロールプレイなどを交えながら英語での基本的なコミュニケーションの講義を行う。

科目概要

歯科医療業界コミュニケーションが英語で図れるようにするために、一般的英会話と歯科専門用語について学ぶ。

到達目標

1) 歯科医療現場での歯科専門用語を理解する。
2) 英会話での歯科医療業界コミュニケーション能力を高める。

授業内容

1) 一般的な会話:あいさつ
2) 国際交流:事前のやりとり
3) 海外の展示会に参加する:入国手続き
4) 海外で働く:訪問先へのアポイント
5) 歯科医院での会話:歯が痛い・入れ歯を入れたい
6) 歯の名前・歯の構造・歯式
7) 歯科技工指示書
8) テスト

使用教材

配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	基礎分野		
教 育 内 容	科学的思考の基盤、人間と生活		
教 科 名	造形美術概論	形 式	講義（対面）
学 年	1 学年	講 義 時 期	前期（4月～9月）
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間
		授 業 回 数	8 回
担当講師	長 野 稔（常勤）	尾 崎 太 紀（常勤）	☆は実務経験のある教員
	田 川 正 弘（常勤）	川 野 礼 恵（常勤）	
	衛 藤 孝 次（常勤）		

講師紹介

カラーコンサルタントの講師によって色彩学の基礎を学び、歯科臨床における歯の色彩を理解させる。
また、美術専修免許を取得した講師や専任教員による、デッサンや造形、デザインなど形態の捉え方の講義を行う。

科目概要

歯科技工士として必要な美的感覚の素地を養い、造形や色彩等や歯のデッサンについて教授する。
デッサンや粘土造形を通して形態の捉え方や、歯科技工士として必要な立体的な形態の表現力を習得する。

到達目標

- 1) 色彩学知識を色調再現などの歯科技工実習に役立てる。
- 2) 物の形や色を正確に捉えて表現することができる。
- 3) 立体的な表現方法を身につけることができる。

授業内容

- 1) 美について: 歯科審美・歯らしい歯とは
- 2) 歯の観察に至るまで: 見ることのメカニズム
- 3) 歯の形態表現: 歯形彫刻用見本を描く
- 4) 前歯のスケッチ: 観察と着彩表現
- 5) 顔の観察: 解剖学的スケッチ・自画像スケッチ
- 6) 歯科技工と色彩: 色彩の基本・色の見え方
- 7) 歯科臨床における色彩: 色の三属性・天然歯の色
- 8) コンピューターグラフィックス

使用教材

配布プリント

評価法

成績評価の方法は、課題80%、出席状況10%、授業態度10%の100%で総括的評価する。なお、課題点が、6割に満たない場合は補講にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	基礎分野			
教 育 内 容	科学的思考の基盤、人間と生活			
教 科 名	情報リテラシー	形 式	講義（対面）	
学 年	1 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）	
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間	
		授 業 回 数	8 回	
担当講師	實 本 真 理 子（非常勤）			☆は実務経験のある教員

講師紹介

本学短期大学の情報リテラシーの講師であり、IT（情報技術）知識を活かした講義を行う。

科目概要

情報リテラシーを身につけるため、パソコンによるMicrosoft Officeを活用した情報処理能力を修得させる。

到達目標

1) IT（情報技術）リテラシーを身につけさせ、学生間のデジタルデバインドを無くす。
2) 実践的な例題を手順にそってパソコンの基本操作を身につける。
3) Microsoft Officeを活用したWordによる文書の作成ができる。

授業内容

1) パソコンの構成とソフトウェア
2) パソコンの基本操作
3) Windowsの基礎的な操作
4) タイピング基礎を身につける。
5) Wordの基本操作
6) Wordの書式設定
7) Wordに図形処理
8) Wordによるビジネス文書の作成
9) Excellによる計算表とグラフの作成
10) PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期（期末）試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が100～90点（秀）、89～80点（優）、79～70点（良）、69～60点（可）、59点以下を不合格（不可）とする。

分 野	基礎分野				
教 育 内 容	科学的思考の基盤、人間と生活				
教 科 名	情報リテラシー	形 式	演習（対面）		
学 年	2 学年	講 義 時 期	前期（4月～9月）		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間		
		授 業 回 数	8 回		
担当講師	尾 崎 太 紀	(常勤)☆	田 川 正 弘	(常勤)☆	☆は実務経験のある教員
	衛 藤 孝 次	(常勤)☆	川 野 礼 恵	(常勤)	
	長 野 稔	(常勤)☆			

講師紹介

CAD/CAMの知識や経験が豊富な歯科技工士教員が指導を行う。

科目概要

デジタルワークフローが広く普及する時代となり、CAD/CAMオペレーションが歯科技工士に求められている。この演習では、CAD/CAMを用いた一連のデジタルワークフローを体験する。

到達目標

1) 歯科用CAD/CAMシステムの機能と構造を理解する。
2) CAMソフトによる加工データ作成オペレーションができる。

授業内容

○一連の操作によりデジタルワークフローの基礎知識を習得する。
1) スキャナーの基本的なオペレーションを行う。
2) 3次元測定を行い、コンピュータにデータを正確に再現する。
3) CADソフトウェアを利用し、歯冠の設計を行う。
①マージンラインの設定
②解剖学的形態設計
③隣在歯との調整
④対合歯との位置関係の調整
⑤側方運動の調整

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、課題80%、出席状況10%、授業態度10%の100%で総括的評価する。なお、課題点が、6割に満たない場合は補講課題にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	基礎分野				
教 育 内 容	科学的思考の基盤、人間と生活				
教 科 名	キャリアデザインⅠ	形 式	講義（対面）		
学 年	1 学年	講 義 時 期	前期（4月～9月）		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間		
		授 業 回 数	8 回		
担当講師	根 岸 由 紀 江	(非常勤)☆			☆は実務経験のある教員

講師紹介

人材育成を目的とする株式会社ユー・ジュエルの代表取締役で、接客・接遇研修、ビジネスマナー研修などに取り組まれている講師が講義を行う。

科目概要

患者様の立場に立って、専門的な内容をわかりやすく情報提供し、患者様の要望に適した治療やメンテナンスを提案するクリニカルコーディネーター講座。

到達目標

コミュニケーションの5原則を理解し、患者さんに安心を与えるコンサルテーション能力を養う。

授業内容

1) クリニカルコーディネーターとは。コミュニケーションとは:5原則。
2) クリニカルコーディネーターのミッション(カウンセリングからのコーチング)。
 アクティブリスニング(傾聴)・アグノリッジメント(承認)
3) 効果的な質問(オープンクエスチョン・クローズクエスチョン)
4) コーチング・ティーチング
5) プレゼンテーションスキル
6) ケーススタディ
7) アンガーマネジメント
8) 自律型人材になろう

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分野	専門基礎分野		
教育内容	歯科技工と歯科医療		
教科名	歯科技工学概論	形式	講義（対面）
学年	1 学年	講義時期	前期（4月～9月）
単位数	1 単位 必修	時間数	16 時間
		授業回数	8 回
担当講師	長野 稔（常勤）☆	尾崎 太紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員
	田川 正弘（常勤）☆	川野 礼恵（常勤）☆	
	衛藤 孝次（常勤）☆		

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が、臨床事例と関連付けて歯科技工士の業務内容や歯科技工に必要な知識の概要を講義する。

科目概要

歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性、歯科技工物についての概要を理解する。
日常的に歯科技工士が使用する様々な歯科材料、器具、機械の名称及びそれらの役割を理解する。
また、歯科技工士が製作する基本的な歯科技工物の名称とその役割を理解する。

到達目標

- 1) 歯科医療の概要、歯科医療における歯科技工の位置づけ、医療技術者としての心構えを理解する
- 2) 口腔の機能・疾患等の概要を理解する
- 3) 歯科技工業務を遂行する上で必要な、運営管理、作業環境、感染予防等について理解する

授業内容

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 歯科医療と歯科技工 <ol style="list-style-type: none"> 1 医療と歯科医療 2 歯科医療の目的 3 歯科医療機関の役割 4 歯科医療関係職種 5 歯科技工と歯科技工学 2) 歯科技工士の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1 歯科技工士の業務 2 歯科技工士の倫理 3 歯科技工士の現状 3) 顔および口腔組織の形態と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1 顔の形態と機能 2 口腔の形態 3 口腔の機能 4) 歯科疾患と周囲組織の変化 <ol style="list-style-type: none"> 1 歯の異常 2 歯列不正・咬合の異常 3 歯および硬組織疾患 4 歯髄の疾患 5 歯周組織疾患 6 顎関節症 7 舌および口腔軟組織疾患 8 顎骨および顔面の疾患 9 歯の喪失に伴う周囲組織の変化 10 歯科疾患の現状 | <ol style="list-style-type: none"> 5) 歯科臨床と歯科技工 <ol style="list-style-type: none"> 1 硬組織疾患と歯科技工 2 歯の欠損と歯科技工 3 歯周疾患と歯科技工 4 歯列不正と歯科技工 5 口腔外科疾患と歯科技工 6 顎関節症と歯科技工 7 スポーツ歯科と歯科技工 8 歯科技工のデジタル化 9 歯科法医学と歯科技工 6) 歯科技工の管理と運営 <ol style="list-style-type: none"> 1 歯科技工の作業環境 2 歯科技工業務の運営 3 歯科技工における衛生管理 7) 口腔と全身の健康管理 <ol style="list-style-type: none"> 1 加齢現象（エイジング） 2 咀嚼と健康 3 歯および口腔の衛生管理 4 健康政策 5 在宅歯科医療 6 災害時の歯科医療 |
|--|---|

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	歯科技工と歯科医療				
教 科 名	歯科技工士関係法規ⅠⅡ	形 式	講義（対面）		
学 年	1.2 学年	講 義 時 期	前期（4月～9月）		
単位数	2 単位 必修	時 間 数	32 時間		
		授 業 回 数	16 回		
担当講師	衛 藤 孝 次 (常勤)☆				☆は実務経験のある教員

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が、その豊富な経験を活かし今後の歯科技工業界を見据えて必要な知識を深める講義を行う。

科目概要

衛生行政を含め主として歯科技工を行ううえで重要な歯科技工士法について定義や法律の内容について学ぶ。
Ⅱでは、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工士免許・名簿に関することや歯科技工の業務に関する申請や違反行為、罰則などを理解する

授業内容

歯科技工士関係法規Ⅰ
1) 衛生行政:法律・政令・省令や歯科技工士と関わりの深い法律
2) 歯科技工士法:法律の目的や用語の定義
3) 歯科技工士法:免許・名簿に関する交付および届け出
4) 歯科技工士法:指定登録機関・政令および厚生労働省への委任
5) 歯科技工士法:国家試験・歯科技工指示書
6) 歯科技工士法:歯科技工所・広告の制限
7) 医療法・歯科医師法・歯科衛生士法:各法律の概要
8) テスト

歯科技工士関係法規Ⅱ
1) 国家試験模擬試験の解説
2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工管理学(医歯薬出版)
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能				
教 科 名	歯の解剖学ⅠⅡ	形 式	講義（対面）		
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）		
単位数	4 単位 必修	時 間 数	64 時間		
		授 業 回 数	32 回		
担当講師	田 川 正 弘	(常勤)☆			☆は実務経験のある教員
	藤 井 茂 仁	(非常勤)☆			

講師紹介

開業医としての臨床経験を有する歯科医師の講師と、知識や経験が豊富な歯科技工士教員が講義を行う。

科目概要

歯の形態、歯周組織、歯列弓、および頭蓋の骨、口腔周囲の筋、顎関節、口腔に関する解剖学的知識を習得する。特に歯の形態については歯種ごとの立体的な特徴を学習し把握する。Ⅱでは、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工の基礎として必要な人体諸器、口腔諸器の肉眼的形態と構造ならびに位置関係、諸器官の機能について形態学的に理解する。

授業内容

歯の解剖学Ⅰ

1) 歯の用語・記号・歯式が説明できる。

2) 各歯の形態、構造上の特徴と歯の形成、機構について説明できる。

3) 各歯の解剖学的名称および特徴、形態学的特徴や歯列弓・咬合状態について説明できる。

4) 歯と歯周組織について説明できる。

5) 齲蝕と歯周病の発生機序について説明できる

6) 上顎骨、口蓋骨、下顎骨の形態と構造を説明できる。

7) 深頭筋、浅頭筋の名称を覚え、部位と機能を説明できる。

8) 顎関節、唾液腺、舌の解剖学的構造と位置関係、機能を説明できる。

9) 歯の発生を時系列で説明できる。

歯の解剖学Ⅱ

1) 国家試験模擬試験の解説

2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学(医歯薬出版)

配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。

成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能				
教 科 名	歯形彫刻基本実習	形 式	実習（対面）		
学 年	1 学年	講 義 時 期	前期（4月～9月）		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	32 時間		
		授 業 回 数	16 回		
担当講師	長 野 稔	(常勤)☆	尾 崎 太 紀	(常勤)☆	☆は実務経験のある教員
	田 川 正 弘	(常勤)☆	川 野 礼 恵	(常勤)	
	衛 藤 孝 次	(常勤)☆			

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士の教員が、解剖学の形態的知識をICTを活用した授業によって基本的な形態を把握させる。

科目概要

デッサンと模刻を繰り返し練習し、歯の形態を理解させ、歯形彫刻の手法を用いて、技工物製作の基本となる歯の形態を細部にわたり製作させる。

到達目標

1) 歯形彫刻については見本模型を見ずに60分以内に指定した歯種の外形と主溝を再現することができる。
2) 歯冠部描記(歯冠部デッサン)については、見本模型を見ずに60分以内に指定した歯種についての5面の線画を描記できる。

授業内容

1) 上顎右側中切歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
2) 上顎右側犬歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
3) 上顎右側第一小臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
4) 上顎右側第二小臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
5) 上顎右側第一大臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
6) 下顎右側第一小臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
7) 下顎右側第二小臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法
8) 下顎右側第一大臼歯: デッサン・歯形彫刻: 多面体カット法

使用教材

最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学(医歯薬出版)
歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)
全技協スタンダードモデル彫刻見本模・スタンダードモデルデッサン図
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、85点以上(秀)、84～80点(優)、79～75点(良)、74～70点(可)、69点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	歯・口腔の構造と機能				
教 科 名	顎口腔機能学Ⅰ・Ⅱ	形 式	講義（対面）		
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）		
単位数	2 単位 必修	時 間 数	32 時間		
		授 業 回 数	16 回		
担当講師	安 部 徹	(非常勤)☆			☆は実務経験のある教員
	衛 藤 孝 次	(常勤)☆			

講師紹介

開業医としての臨床経験を有する歯科医師の講師と、知識や経験が豊富な歯科技工士教員が講義を行う。

科目概要

顎口腔系の形態と機能(下顎運動・嚥下運動や歯の接触様式)を理解し、下顎運動を再現する咬合器のはたらきを理解することで実際の歯科補綴装置の製作に活用できることを目的とする。Ⅱでは、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

1) 下顎運動、咬合接触様式、機能運動とその障害を説明できる。
2) 各種咬合器の特徴と取扱いを説明できる。
3) 有床義歯、歯冠修復装置の咬合様式を説明できる。

授業内容

顎口腔機能学Ⅰ

1) 下顎運動に関係する基準点・基準面咬合に関する平面・下顎位について
2) 下顎前後運動・側方運動について
3) 下顎限界運動①について
4) 下顎限界運動②・機能運動について
5) 歯の接触様式①について
6) 歯の接触様式②・咬合様式について
7) 咬合様式・咬合検査と顎機能障害
8) テスト

顎口腔機能学Ⅱ

1) 国家試験模擬試験の解説
2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 顎口腔機能学(医歯薬出版)
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門基礎分野				
教 育 内 容	歯科材料・歯科技工機器と加工技術				
教 科 名	歯科理工学Ⅰ・Ⅱ	形 式	講義（対面・遠隔）		
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）		
単位数	7 単位 必修	時 間 数	112 時間		
		授 業 回 数	56 回		
担当講師	高 橋 英 和	(非常勤)☆			☆は実務経験のある教員
	永 松 有 紀	(非常勤)			
	尾 崎 太 紀	(常勤)			

講師紹介

歯学博士であり歯科大学においての教育経験を有する講師ならびに知識や実務経験が豊富な歯科技工士教員が、材料の正しい知識と理論に基づいて、事例を交えながら講義を行う。

科目概要

歯科治療や各種歯科用装置の製作に使用される歯科成形加工用材料について、種類や歯科理工学的性質（力学的、物理化学的、生物学的）について学び、用途ごとに求められる所用性質との関連性について理解する。Ⅱでは、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

1) 各材料の機械的特性、物理的・化学的性質を理解する
2) 鋳造に関する注意点や鋳造欠陥の原因対策を理解する
3) 研磨の原理と方法を理解する

授業内容

歯科理工学Ⅰ
1) 歯科技工と歯科理工学
2) 歯科材料の性質
3) 印象と模型製作
4) 原型製作
5) レジン成形
6) セラミック成形
7) 金属成形
8) その他の歯科材料
9) 補綴装置と修復物の仕上げ
10) 新しい加工技術
11) 補綴装置と修復物の安定性

歯科理工学Ⅱ
1) 国家試験模擬試験の解説
2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科理工学（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験(80点)、出席状況(10点)、授業態度(10点)の計100点満点により評価する。ただし、中間試験を行う場合は、中間試験の評価は定期試験の点数(80点)のうち20%(16点)とし、定期試験の評価は残り64点とする。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分野	専門分野		
教育内容	有床義歯技工学		
教科名	有床義歯技工学Ⅰ・Ⅱ	形式	講義（対面）
学年	1・2 学年	講義時期	全期（4月～2月）
単位数	6 単位 必修	時間数	96 時間
		授業回数	48 回
担当講師	首 藤 謙 一 (非常勤)☆	長 野 稔 (常勤)☆	☆は実務経験のある教員
	山 下 浩 平 (非常勤)☆		
	飯 田 哲 也 (非常勤)☆		

講師紹介

開業医としての臨床経験を有する歯科医師の講師と、知識や経験が豊富な歯科技工士教員が講義を行う。

科目概要

歯の喪失に伴う生体の変化と有床義歯による審美性・機能性の回復について理解した上で、全部床義歯と部分床義歯のそれぞれの特性、種類、構造を学び、診療手順と関連づけながら有床義歯の製作手順を学ぶ。Ⅱでは、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

- 1) 歯の欠損した口腔およびその周辺組織の変化の理解
- 2) 有床義歯治療の流れと技工工程の関連性の理解
- 3) 義歯の設計の基本や維持装置、連結装置の製作法を修得
- 4) 人工歯排列の方法と咬合様式を修得
- 5) 埋没、重合、研磨操作の方法を修得

授業内容

有床義歯技工学Ⅰ

- 1) 有床義歯技工学総論
 - 1 有床義歯技工学概説 2 有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識
- 2) 全部床義歯技工学
 - 3 全部床義歯の特性 4 全部床義歯の製作順序 5 全部床義歯の印象採得に伴う技工作業
 - 6 全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業 7 全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成
 - 8 全部床義歯の埋没と重合 9 全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨
- 3) 部分床義歯技工学
 - 10 部分床義歯の特性 11 部分床義歯の製作順序 12 部分床義歯の構成要素
 - 13 部分床義歯の印象採得に伴う技工作業 14 部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業
 - 15 クラスプの製作 16 バーの製作 17 部分床義歯の人工歯排列、削合、歯肉形成
 - 18 部分床義歯の埋没と重合 19 部分床義歯の咬合調整と研磨
- 4) 有床義歯とその関連事項
 - 20 修理 21 リベースおよびリライン 22 オーバーデンチャー
 - 23 金属床義歯 24 その他の有床義歯

有床義歯技工学Ⅱ

- 1) 国家試験模擬試験の解説
- 2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）
 コンプリートデンチャーテクニック（医歯薬出版）
 パーシャルデンチャーテクニック（医歯薬出版）
 歯科臨床別冊クラスプデンチャーの設計（医歯薬出版）
 配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期（期末）試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
 成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が100～90点（秀）、89～80点（優）、79～70点（良）、69～60点（可）、59点以下を不合格（不可）とする。

分 野	専門分野			
教 育 内 容	有床義歯技工学			
教 科 名	有床義歯技工学実習	形 式	実習（対面）	
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）	
単位数	6 単位 必修	時 間 数	192 時間	
		授 業 回 数	96 回	
担当講師	長 野 稔（常勤）☆	尾 崎 太 紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員	
	田 川 正 弘（常勤）☆	川 野 礼 恵（常勤）		
	衛 藤 孝 次（常勤）☆			

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

歯の喪失に伴う生体の変化と有床義歯による審美性・機能性の回復について理解した上で、全部床義歯と部分床義歯のそれぞれの特性、種類、構造を学び、有床義歯の基礎技工技術を学ぶ。

到達目標

1) 全部床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を修得する。
2) 歯科技工に必要な材料、器具、製作方法を理解し、技能を修得する。
3) 患者の口腔内へ装着するに相応しい義歯の形態を適切に判断し、表現することができる。

授業内容

全部床義歯技工学実習

1) 咬合器装着
模型基底面にスプリットキャストを付与し、咬合平面板を用いて装着
2) 人工歯排列と歯肉形成
前歯部は審美性および発音機能、臼歯部は咀嚼機能を重視しての人工歯の排列、歯肉形成
3) 義歯の完成(埋没と重合)
一次、二次埋没 ・加熱重合填入操作 ・咬合器への再装着ならびに人工歯の選択削合と自動削合・研磨

部分床義歯技工学実習

1) 支台装置および連結子の製作: サベイングを行い、着脱方向の決定、等高点およびサベイラインの描記
・クラスプおよびバーの外形線が記入 ・クラスプ用金属線、屈曲バーの屈曲操作
2) 人工歯排列と歯肉形成
前歯部は審美性および発音機能、臼歯部は咀嚼機能を重視し、残存歯と調和した人工歯の排列
咬頭嵌合位と前・側方運動で人工歯を選択削合し、残存歯に調和した咬合関係を構築
残存歯と調和した審美性および機能を考慮した歯肉形成
3) 義歯の完成(埋没と重合)
口ウ義歯の埋没前準備を行い、レジン填入操作から仕上げ研磨まで

金属床義歯実習

複模型を使ったワンピースキャストパーシャルの製作

使用教材

最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版）・有床義歯技工 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
コンプリートデンチャーテクニック（医歯薬出版）
パーシャルデンチャーテクニック（医歯薬出版）
歯科臨床別冊クラスプデンチャーの設計（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験での実技試験にて評価する。なお、実技試験点が7割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価(100点満点)が、85点以上(秀)、84～80点(優)、79～75点(良)、74～70点(可)、69点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野				
教 育 内 容	歯冠修復技工学				
教 科 名	歯冠修復技工学Ⅰ・Ⅱ	形 式	講義（対面・遠隔）		
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）		
単位数	単位 必修	時 間 数	112 時間		
		授 業 回 数	56 回		
担当講師	伊 吹 禎 一	(非常勤)☆			☆は実務経験のある教員
	谷 口 之 則	(非常勤)☆			
	尾 崎 太 紀	(常勤)☆			

講師紹介

歯科医師であり歯科大学にて臨床経験を有する講師ならびに開業医としての臨床経験を有する歯科医師と知識や実務経験が豊富な歯科技工士教員が講義を行う。

科目概要

歯冠修復における歯科技工の目的、種類、構造、材料、製作手順を顎口腔系の生理学および形態学的理論と関連づけて講義する。Ⅱでは、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

1) 歯冠修復に関する歯科補綴治療の流れを理解する。
2) 歯冠修復装置の種類、目的、製作方法を理解する。

授業内容

歯冠修復技工学Ⅰ

1) クラウン・ブリッジと歯および歯周組織との関係を説明
2) クラウン、ブリッジの治療の流れを説明
3) クラウン、ブリッジの製作法を説明
4) 鑲着方法を説明
5) 前装金属冠の種類の違いを説明
6) CAD/CAMシステムを説明

歯冠修復技工学Ⅱ

1) 国家試験模擬試験の解説
2) 国家試験重要ポイントの解説

使用教材

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野				
教 育 内 容	歯冠修復技工学				
教 科 名	歯冠修復技工学実習	形 式	実習（対面）		
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）		
単位数	単位 必修	時 間 数	192 時間		
		授 業 回 数	96 回		
担当講師	衛 藤 孝 次 (常勤)☆	長 野 稔 (常勤)☆	☆は実務経験のある教員		
	尾 崎 太 紀 (常勤)☆	川 野 礼 恵 (常勤)			
	田 川 正 弘 (常勤)☆				

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

講義で学んだ歯冠修復技工物の特徴、目的、製作過程と使用材料の名称や性質・注意点などの知識を、実習をとおして体験的に学び、理解と技術を身につける。

到達目標

全部金属冠/メタルコア・インレー/プロビジョナルレストレーション/固定性ブリッジ/レジン前装冠/陶材焼付金属冠

- ・目的と製作方法を理解し、製作することができる。
- ・材料の特徴、器具の取り扱いを理解し、正しく操作することができる。
- ・解剖学的形態を理解し、対合関係、歯列、歯肉との調和を考え製作することができる。
- ・製作物をスピーディーに仕上げて、期限内に提出することができる。

授業内容

1) 作業模型の製作（模型材の練和、注入/対合模型含む模型の調整）
2) 作業模型の製作(ダウエルピン歯型・副歯型の調整)
3) 咬合器への装着（平均値咬合器・自由運動咬合器を使用）
4) 蠟型の採得(ワックスアップ）
 A.全部金属冠
 B.メタルコア
 C.メタルインレー
 D.プロビジョナルレストレーション
 E.固定性ブリッジ/鑄造ポンティック（ワックスパターンの窓開け）
 F.レジン前装冠（ワックスパターンの窓開け・リテンションビーズの付与）
 G.陶材焼付金属冠（ワックスパターンの窓開け）
5) 蠟型埋没（スプルーイング等前準備・埋没）
6) 鑄造（乾燥加熱/鑄造（遠心鑄造機・高周波鑄造機）/取り出し/サンドプラスト）
7) 適合（鑄造体・適合の確認/外形・咬合の確認・調整）
8) 連結（コア採得・鑢付け用ブロック作成/鑢付け・適合確認）
9) 築盛/形態修正（接着処理・オパーク塗布/歯冠色の築盛・形態修正・艶出し研磨）
8) 研磨（上記以外の形態修正・研磨）

最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）
歯冠修復技工 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験での実技試験にて評価する。なお、試験点が7割に満たない場合は再試験を行う。

成績評価の基準は、成績評価(100点満点)が、85点以上(秀)、84～80点(優)、79～75点(良)、74～70点(可)、69点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野				
教 育 内 容	小児歯科技工学				
教 科 名	小児歯科技工学	形 式	講義（対面）		
学 年	1 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間		
		授 業 回 数	8 回		
担当講師	佐 保 敦 志 (非常勤)☆				☆は実務経験のある教員

講師紹介

開業医としての臨床経験を有する歯科医師の講師が講義を行う。

科目概要

歯、顎、顔面及び全身の成長発育に関することや乳歯歯冠修復物及び咬合誘導装置等の製作技術を学ぶ

到達目標

1) 小児歯科治療の特色・目的を理解する
2) 小児の歯冠修復・咬合誘導装置などの種類や製作法を理解する

授業内容

1) 小児歯科技工概説
2) 歯・顎・顔面の成長発育
3) 小児の歯冠修復
4) 咬合誘導装置の種類
5) 保隙装置
6) スペースリゲーター
7) 口腔習癖除去装置
8) 咬合誘導装置に用いる維持装置

使用教材

最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野				
教 育 内 容	小児歯科技工学				
教 科 名	小児歯科技工学実習	形 式	実習（対面）		
学 年	1 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）		
単位数	1 単位 必修	時 間 数	32 時間		
		授 業 回 数	16 回		
担当講師	田 川 正 弘（常勤）	尾 崎 太 紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員		
	長 野 稔（常勤）☆	川 野 礼 恵（常勤）			
	衛 藤 孝 次（常勤）☆				

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

咬合異常を予防する小児歯科治療を理解し、そのために用いられる保隙装置および咬合誘導装置について実習する。

到達目標

1) 保隙装置（クラウンループ、クラウンディスタルシュー）の役割と製作方法について理解する。
2) 咬合誘導装置（スペースリゲイナー）の役割と製作方法について理解する。
3) 維持装置の屈曲方法について理解する。

授業内容

1) クラウンループ
①クラウン部の適合
②ループの屈曲
③ループ脚部とクラウン部の口ウ着
④装置全体の研磨
2) クラウンディスタルシュー
①クラウン部の適合
②シューの垂直部と水平部の長さ、方向に注意して製作
③シューとクラウン部の口ウ着
④装置全体の研磨
3) スペースリゲイナー
①切歯唇側線の屈曲
②アダムスクラスプの屈曲
③アダムススプリングの屈曲
④床の製作と装置全体の研磨
4) 咬合誘導装置に用いる維持装置の屈曲
①維持装置（ボールクラスプ）の屈曲
②維持装置（単純鉤）の屈曲

使用教材

最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版）
矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が、85点以上（秀）、84～80点（優）、79～75点（良）、74～70点（可）、69点以下を不合格（不可）とする。

分 野	専門分野			
教 育 内 容	矯正歯科技工学			
教 科 名	矯正歯科技工学	形 式	講義（対面）	
学 年	1 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）	
単位数	1 単位 必修	時 間 数	16 時間	
		授 業 回 数	8 回	
担当講師	城 下 功 (非常勤)☆			☆は実務経験のある教員

講師紹介

開業医としての臨床経験を有する歯科医師の講師が講義を行う。

科目概要

不正咬合の種類や矯正治療の手順を知り、各種不正咬合の治療を円滑に行うために用いる主要な矯正装置の特徴や製作方法を理解する。

到達目標

1) 正常咬合と不正咬合について理解する。
2) 矯正用口腔模型の種類・特徴・作製方法を理解する。
3) 矯正用器具器材について理解する。
4) 矯正装置・保定装置の目的・構成・製作方法を理解する。

授業内容

1) 矯正歯科治療とは
2) 矯正歯科技工学の意義と目的
3) 正常咬合と不正咬合(咬合異常)
4) 矯正歯科治療の進め方
5) 矯正歯科技工用器具と器械, 材料
6) 矯正歯科技工の手技
7) 矯正用口腔模型の製作
8) 矯正装置の必要条件と分類
9) 矯正装置の製作法(動的矯正装置)
10) 保定装置(静的矯正装置)

使用教材

最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）
配布プリント

評価法

成績評価の方法は、定期(期末)試験にて評価する。なお、試験点が6割に満たない場合は再試験を行う。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野			
教 育 内 容	矯正歯科技工学			
教 科 名	矯正歯科技工学実習	形 式	実習（対面）	
学 年	1 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）	
単位数	1 単位 必修	時 間 数	32 時間	
		授 業 回 数	16 回	
担当講師	長 野 稔（常勤）☆	尾 崎 太 紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員	
	田 川 正 弘（常勤）☆	川 野 礼 恵（常勤）		
	衛 藤 孝 次（常勤）☆			

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

動的矯正治療に用いる矯正装置や静的矯正治療に用いる保定装置について実習する。

到達目標

1) 各装置の種類と目的を理解できる。
2) 講義で習得した知識を生かして、装置を製作することができる。
3) 矯正装置などの製作に用いられる器具の名称と使い方を理解できる。

授業内容

1) ワイヤーベンディング
① 手指のベンディング
② プライヤーのベンディング
2) 矯正装置の製作(リンガルアーチ)
① 維持部の鑑付け
② 脚部の屈曲
③ 主線の屈曲
④ 脚部と主線の鑑付け
⑤ 補助断線の鑑付け・屈曲
⑥ 研磨
3) 保定装置の製作(ホーレーのリテーナー)
① 接歯唇側線の屈曲
② 単純鉤の屈曲
③ レジン床の製作(レジンの築盛と研磨)

使用教材

最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版）
矯正歯科技工・小児歯科技工 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
配布PDFデータ・プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、85点以上(秀)、84～80点(優)、79～75点(良)、74～70点(可)、69点以下を不合格(不可)とする。

分 野	専門分野			
教 育 内 容	歯科技工実習			
教 科 名	総合基礎実習ⅠⅡ	形 式	実習（対面）	
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）	
単位数	4 単位 必修	時 間 数	128 時間	
		授 業 回 数	64 回	
担当講師	長 野 稔（常勤）☆	尾 崎 太 紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員	
	田 川 正 弘（常勤）☆	川 野 礼 恵（常勤）		
	衛 藤 孝 次（常勤）☆			

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

限られた時間の中で課題が完成できるよう、反復練習を行い基本的な技術を習得する。

1) 歯の形態を再現（歯形彫刻や歯冠修復物の製作）

2) 人工歯排列と歯肉形成（全部床義歯）

到達目標

1) 歯冠修復基礎実習における基本操作（盛る・削る・並べる）を通じて、指定した歯種を規定時間内で製作できる。

2) 歯形彫刻基本実習における歯形彫刻の手法を用いて、指定した歯種を規定時間内で彫刻できる。

3) 審美性および機能性を考慮した全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成を指定した規定時間内で製作できる。

授業内容

[歯形彫刻]

- ・全歯種の歯形彫刻の反復練習

[全部床義歯人工歯排列・歯肉形成]

- ・人工歯排列の反復練習
- ・歯肉形成の反復練習

[全部金属冠のワックスアップ]

- ・ワックスアップの反復練習

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習・有床義歯技工学・歯冠修復技工学・口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版）

歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻/有床義歯技工/歯冠修復技工/ 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）

全技協スタンダードモデル彫刻見本模・スタンダードモデルデッサン図

配布PDFデータ・プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。

成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が、85点以上（秀）、84～80点（優）、79～75点（良）、74～70点（可）、69点以下を不合格（不可）とする。

分 野	専門分野			
教 育 内 容	歯科技工実習			
教 科 名	基礎応用実習ⅠⅡ	形 式	実習（対面）	
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）	
単位数	3 単位 必修	時 間 数	96 時間	
		授 業 回 数	48 回	
担当講師	長 野 稔（常勤）☆	尾 崎 太 紀（常勤）☆	☆は実務経験のある教員	
	田 川 正 弘（常勤）☆	川 野 礼 恵（常勤）		
	衛 藤 孝 次（常勤）☆			

講師紹介

知識や経験が豊富な歯科技工士教員が実習指導を行う。

科目概要

これまでに学習してきた知識と実習内容を有機的に関連付け、個々の課題を見出しながら総合的に歯科技工実習を行う。この実習を通して、歯科技工スキルを高めるとともに、国家試験実地試験ならびに全国歯科技工士教育協議会の実技評価試験に向けての技術とスピードを修得する。

到達目標

1) 解剖学的特徴を備えた歯の外形描記・歯形彫刻を行える
2) 外形線に一致した平面屈曲ができる
3) 全部金属冠のワックスアップを確実に行うことができる
4) 全部床義歯の人工歯配列および歯肉形成を行うことができる

授業内容

[スケッチ]

- ・歯の三大徴候 ①弯曲徴の表現 ②隅角徴の表現 ③歯根徴の表現
- ・各歯の特徴
- ・描記線の滑らかさ

[歯型彫刻]

- ・歯の三大徴候 ①弯曲徴の表現 ②隅角徴の表現 ③歯根徴の表現
- ・各歯の特徴
- ・表面仕上げ

[全部床義歯人工歯排列・歯肉形成]

- ・前歯部排列 ①歯軸の正確性 ②被蓋関係の正確性 ③アーチの正確性
- ・臼歯部排列 ①調節弯曲の正確性 ②咬合関係の正確性 ③歯列位置の正確性
- ・歯肉形成 ①歯頸線の位置の正確性 ②歯根豊隆の正確性 ③舌房域の正確性
- ・スピード

[全部金属冠のワックスアップ]

- ・歯冠形態 ①支台歯との適合 ②マージンの適合 ③隣接面コンタクトの適合 ④表面仕上げが良好
- ・咬合関係
- ・仕上げ度

[平面屈曲]

- ・外形図での適合
- ・平面での適合

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習・有床義歯技工学・歯冠修復技工学・口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版）
歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻/有床義歯技工/歯冠修復技工/ 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
歯科技工士国家試験問題集（医歯薬出版）
配布PDFデータ・プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が、85点以上（秀）、84～80点（優）、79～75点（良）、74～70点（可）、69点以下を不合格（不可）とする。

分 野	専門分野				
教 育 内 容	歯科技工実習				
教 科 名	総合応用実習	形 式	実習（対面・遠隔）		
学 年	2 学年	講 義 時 期	後期（10月～2月）		
単位数	4 単位 必修	時 間 数	128 時間		
		授 業 回 数	64 回		
担当講師	横 田 浩 史	(非常勤)☆	衛 藤 孝 次	(常勤)☆	☆は実務経験のある教員
	長 野 稔	(常勤)☆	尾 崎 太 紀	(常勤)☆	
	田 川 正 弘	(常勤)☆	川 野 礼 恵	(常勤)	

講師紹介

海外で臨床経験を有した教員が、その豊富な経験を活かし総合的な歯科技工知識について講義を行う。
また、知識や経験が豊富な歯科技工士教員が応用実習の指導する。

科目概要

審美歯科での必要な知識を学び、実習を通じて理解度の確認を行い、知識の定着と理解度を深め、海外勤務の経験から海外就職のためのアドバイスを行う。
また、専任教員やメーカーインストラクターによる臨床的実践実習を行う。

到達目標

1) 専門科目の枠を超え、総合的に考えることができる。
2) 理解できない点、疑問点を発見し、それを理解することができる。
3) 歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を発見し設定することができる。

授業内容

1) カナダや中国の歯科事情と海外就職について
2) シェードティッキングからの色調再現方法(表面ステインテクニックによるキャラクタライズ)
3) IOSによる光学印象からCAD/CAM補綴製作方法
4) フェースボウトランスファーによる咬合器装着とチェックバイトによるアジャスト法
5) 睡眠時ブラキシズム等でのオーラルアプライアンスの製作

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習・有床義歯技工学・歯冠修復技工学・口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版）
歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻/有床義歯技工/歯冠修復技工/ 歯科技工学実習トレーニング(医歯薬出版)
最薄で最大の効果を出す表面ステインテクニック(医歯薬出版)
若手歯科医師・技工士のためのシェードティッキング超入門(クインテッセンス出版)
配布PDFデータ・プリント

評価法

成績評価の方法は、実技課題80%、作業能力10%、実習態度10%の100%で総括的評価する。なお、実技課題点が、7割に満たない場合は補充実習にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点(100点満点)が、85点以上(秀)、84～80点(優)、79～75点(良)、74～70点(可)、69点以下を不合格(不可)とする。

分 野	指定科目外			
教 育 内 容	指定科目外			
教 科 名	包括的医療教育	形 式	実習（対面）	
学 年	1・2 学年	講 義 時 期	全期（4月～2月）	
単位数	6 単位 選択	時 間 数	192 時間	
		授 業 回 数	96 回	
担当講師	長 野 稔 (常勤)☆	尾 崎 太 紀 (常勤)☆	☆は実務経験のある教員	
	田 川 正 弘 (常勤)☆	川 野 礼 恵 (常勤)☆		
	衛 藤 孝 次 (常勤)☆	横 田 浩 史 (非常勤)☆		

講師紹介

歯科医院や歯科技工所との産学連携によって臨床経験からの豊富な知識を備えた歯科医師や歯科技工士が指導を行う。また、知識や経験が豊富な歯科技工士教員により実地研修の事前指導を行う。

科目概要

チーム歯科医療の一員であることを確認するために、各科目を通じて学んだことを振り返り、歯科技工士としての役割を認識する。歯科技工所や歯科医院などの歯科技工士就業施設の実地研修を通して、歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を設定し、実践することができる。

到達目標

1) 歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を発見し設定することができる。
2) 歯科技工業務の見学および就業体験を通じて、業界で活躍するために必要な自らの課題について理解する。
3) 歯科医院の実地研修での補綴治療におけるチェアサイドラーニングで、歯科医師と歯科技工士の連携による高次元な歯科医療の提供をできる歯科技工士教育を図る。

授業内容

1) 歯科技工所でのインターンシップ
・歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
・デジタル歯科技工に特化した歯科技工所の見学を通して将来の目標設定をする。
・ラボサイドでのCAD/CAMによる補綴装置の製作を学ぶ。

2) 歯科医院での実地研修
・診療業務に立ち合い補綴治療の流れを学ぶ。
・IOSによる光学印象から、CAD/CAM補綴装置の調整・装着までの包括的デジタルワークを学ぶ。

使用教材

最新歯科技工士教本 歯科技工実習・有床義歯技工学・歯冠修復技工学・口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版）
歯の解剖 歯のデッサンと歯型彫刻/有床義歯技工/歯冠修復技工/ 歯科技工学実習トレーニング（医歯薬出版）
最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 第2版（医歯薬出版）
CAD/CAMデンタルテクノロジー（医歯薬出版）
配布PDFデータ・プリント

評価法

成績評価の方法は、研修評価点にて評価する。研修評価点が6割に満たない場合は補講にて対応する。
成績評価の基準は、成績評価点（100点満点）が100～90点（秀）、89～80点（優）、79～70点（良）、69～60点（可）、59点以下を不合格（不可）とする。